

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
堀内正博			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
矢野 晋吾		青山学院大学 総合文化政策学部	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習	AYGa-120702-0	6人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

学生が調査の企画から、調査票の設計、データの収集・分析、報告書の作成までの一連のプロセスを担当した。6人の受講学生のまとめもよく、ほぼ予定通りの分析ができたと判断している。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

若者のファッションに対する意識調査

2. 調査の内容／概要：

若者のファッションに対する行動(意識、購買行動、消費行動、情報限など)を多面的に捉えることを目的とした。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

調査対象者の母集団は大学生であるが、実際の調査は主として青山学院大学の学生に限っているためにデータのバイアスは存在する。標本数は516サンプル。

4. 主な調査項目：

若者のファッションに対する意識、若者の衣服の購買行動、ファッションに関する情報源、ファッションに関する消費行動、若者のファッションの購買行動における母親の影響度、など。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

調査票に記入する質問紙調査。量的調査のみで自由記述欄は設けていない。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

2012年8月から10月。主たる被調査者は青山学院大学の学生であるが、一部は東京都にある他大学の学生も含まれる。調査員は授業参加者の6名。

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

有効回答数516、無効回答数23。回収率は、会場調査のため、算出不能。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

単純集計、クロス集計、相関分析、因子分析、クラスター分析、回帰分析。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

分析は多岐にわたるが、主たる知見は次の通り。1. 大学生はファッション人に対して同調性よりも、個性を重視する傾向がみられる、2. ブランド服に対しておしゃれと感じるグループとそうでないグループの差が大きい、3. ファッション情報はインターネットからよりも雑誌の方が影響力は強い、などである。

10. 報告書刊行の予定と概要：

報告書の章立ては次の通り。1章：個性と同調性に関する分析、2章：若者にとってのおしゃれ、3章：衣服の購買意思決定とファッションの情報源、4章：雑誌の影響力、5章：ファッションとオンラインショッピング、6章：ファッションにおける母親と娘の関係性